

新春特別座談会

「2025年」まで残り1年 地域包括ケアシステムの現在地は

一出席者一

埼玉県立大学 理事長 田中 滋氏
国際医療福祉大学大学院 准教授 小平めぐみ氏
ヤマシタ 社長 山下 和洋氏

団塊の世代が全後期高齢者に到達し終わっている2025年初頭まで残り1年を切った。いわゆる「2025年問題」として、この年を目前に地域包括ケアシステム構築に向けた累次の改正・改定が行われてきた。これまでに地域包括ケアシステム構築に向けた累次の改正・改定が行われてきた。これまでに地域包括ケアシステム構築に向けた累次の改正・改定が行われてきた。これまでに地域包括ケアシステム構築に向けた累次の改正・改定が行われてきた。



田中 滋氏

慶應義塾大学名誉教授。専門は医療政策・介護政策。地域包括ケアシステムの第一人者で、地域包括ケア研究会座長を務めた。社会保障審議会介護給付費分科会分科会長として、介護報酬改定に長く携わってきた。2018年より現職。

「当たり前」になった 医療介護連携

地域包括ケアシステム構築の目途としていた2025年まであと1年となりました。地域包括ケアシステムの構築はどの程度進んだのでしょうか。田中 滋氏、地域包括ケアシステムの構築に完成形や到達点はないと考えています。2008年に立ち上がった地域包括ケア研究会も「何をやって地域包括ケアシステムの完成とするか」という点について言及したことはありません。ただし、地域包括ケアシステムが提唱された当時と比べて、変化や進化をみることはできます。

担当課の創設など 自治体の体制も変化

田中 医療介護連携以外にも、地域包括ケアシステム推進の責任者である自治体の体制も大きく変わりました。多くの地方自治体が「地域包括ケア課」などの名称で、地域包括ケア専門の部署や担当者を置くようになった。地域包括ケアシステム推進の役割や業務規定が設定されれば、そのための施策や仕組みへの注力も進みます。田中 適切なケアマネジメン手法は、基本ケアと高齢者に多い疾患別ケアについて、ケアマネジャーと支援内容の抜け漏れを防ぐことで、一定水準以上のケアマネジャーの質を担保するものですね。

田中 医療介護連携の推進が挙げられます。医療・介護の関係者協働のためのケアカンファレンスや研修会等が、全国各地で当たり前に行われるようになってきました。医療介護連携の推進は、事業者の立場からも実感しています。象徴的な例を挙げるとすれば地域包括ケア病棟の創設です。名称が示す通り、地域包括ケアの実現のために、医療との連携が鍵だと、それまで以上に意識するきっかけになりました。入院時や退院時、一人ひとりの患者・利用者について、どのように対応してあげていくか、という同じ視点で意見を交わす機会も増え、以前よりも医療・介護の距離は縮まっていると思います。



小平 めぐみ氏

博士(医療福祉学)。専門領域は自立支援介護、認知症、高齢者福祉など。介護福祉士、介護支援専門員などの現場経験を経て、2011年より現職。日本自立支援介護・パワーリハ学会代表理事も務める。

小平 そうですね。医療と介護がタッグを組む「1+1>2」のようになっているか、という点も同じ視点で意見を交わす機会も増え、以前よりも医療・介護の距離は縮まっていると思います。田中 医療介護連携の推進が挙げられます。医療・介護の関係者協働のためのケアカンファレンスや研修会等が、全国各地で当たり前に行われるようになってきました。医療介護連携の推進は、事業者の立場からも実感しています。象徴的な例を挙げるとすれば地域包括ケア病棟の創設です。名称が示す通り、地域包括ケアの実現のために、医療との連携が鍵だと、それまで以上に意識するきっかけになりました。入院時や退院時、一人ひとりの患者・利用者について、どのように対応してあげていくか、という点も同じ視点で意見を交わす機会も増え、以前よりも医療・介護の距離は縮まっていると思います。



山下 和洋氏

慶應義塾大学卒業。2010年ヤマシタコーポレーション(現・ヤマシタ)入社、高松営業所配属。13年7月より現職。全国福祉用具専門相談員協会副理事長、日本福祉用具供給協会理事、日本リネンサプライ協会理事なども務める。

田中 医療介護連携の推進が挙げられます。医療・介護の関係者協働のためのケアカンファレンスや研修会等が、全国各地で当たり前に行われるようになってきました。医療介護連携の推進は、事業者の立場からも実感しています。象徴的な例を挙げるとすれば地域包括ケア病棟の創設です。名称が示す通り、地域包括ケアの実現のために、医療との連携が鍵だと、それまで以上に意識するきっかけになりました。入院時や退院時、一人ひとりの患者・利用者について、どのように対応してあげていくか、という点も同じ視点で意見を交わす機会も増え、以前よりも医療・介護の距離は縮まっていると思います。

からだ、こころ、くらしの豊かさを届け続ける
介護に休みはありません だから「ヤマシタは365日対応」
体調不良が続く、ベッドで過ごす時間が長かった母。ある日、訪問看護師さんから「すぐに床ずれ予防のマットレスに変更した方がよい」とアドバイスをもらいました。ヤマシタさんに相談したところ、土曜日にも関わらず、すぐにケアマネジャーさんと連絡をとって、訪問看護師さんとも連携しながら、どのマットレスが良いかを決めてくれました。それだけでなく、自宅の中を移動するための車いすとクッションも提案していただき、そのおかげで母はベッドから起きる機会も増え、私もトイレへの付き添いが楽になりました。土日や年末年始も休まずに営業されているので、介護をしている身としては本当に安心です。こちらがお願いしたマットレスだけでなく、現在の状態から必要な福祉用具を提案してくださり、さすがプロだなと思いました。